

若手研究者コラムリレー

大林 太郎 (おおばやし たろう)



プロフィール

筑波大学体育系 助教(体育史・スポーツ人類学領域)

2007年 愛知県立明和高等学校 卒業

2011年 筑波大学体育専門学群 卒業

2013年 筑波大学大学院 博士前期課程 体育学専攻 修了

2015年 ギリシャ・ペロポネソス大学大学院 (オリンピア、スパルタ校舎) 修了

2020年 筑波大学大学院 博士後期課程 体育科学専攻 修了 (博士:体育科学)

日本学術振興会特別研究員(DC2)、東京藝術大学非常勤講師、NHK大河ドラマ「いだてん〜東京オリムピック噺」時代考証(スポーツ史)を経て2020年より現職 [e-mail: obayashi.taro.gn@u.tsukuba.ac.jp]



オリンピアの古代遺跡(スタディオン前のゲート)にて

わたしの研究について

人はなぜ走るのかーランニングの 歴史人類学を探究したい

学部生の頃、陸上競技(十種競技)の練習に明け暮れていた自分が学問を志すようになったのは、後に研究指導を仰ぐ真田久教授の「スポーツの歴史人類学」の講義がきっかけでした。古代ギリシャに一つのルーツを持つ短距離走の歴史を学び、また世界各地で継承されてきたマラソン文化の多様さに驚くうちに、人はいったい何のために走るのか、それまで勝敗のみにこだわっていた私の関心は、次第に新しい方向に向かっていきました。



指導教員の真田久教授と
学位記授与式にて

大学院への進学を控えた2011年3月、東日本大震災が起こりました。当時のスポーツ界は、大会等を自粛・中止する混乱の中で、復興に果たすスポーツの“力”を模索する様々な試みを行っていましたが、その中で歴史人類学を志向する私には何ができるのか、自問を繰り返した末に思い至ったのが、災害大国日本における過去の事例に学ぶことはできないか、という考えでした。

調べてみると、驚いたことに、既に大正時代(1923年)の関東大震災後の東京市では復興に向けた「市民体育」の意義が論じられており、被災した市内では実際に運動会や競技会が展開されていたことが明らかになりました(このことは、コラム内の参考論文に詳述しています)。一世紀も前の日本に、被災者が「走ることを通して“生きていること”を実感する」という概念が存在していたことに、大きな驚きと感動を覚えました。

以来、私は「走る」という身体文化を軸に、歴史学・人類学の学びを深めています。人はなぜ走るのか、という単純で奥深いこの主題に、じっくりと向き合っていきたいと思います。

コラム:「いだてん」を振り返って

2019年のNHK大河ドラマでは、日本初のオリンピック代表選手の一人である金栗四三が主人公となりました。私は畏れ多くもドラマの時代考証(スポーツ史)の一端を仰せつかり、その際には本学会の若手研究者の皆さまに様々な場面でお力添えいただきました。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

実際のところ、宮藤官九郎さんの脚本に関するプロデューサーや現場監督からの問合せ内容は多岐にわたり、金栗と嘉納治五郎の会話としてこのセリフは適切か、当時のランニングフォームをいかに再現するか、ユニフォームや足袋の形状と材質はこれで良いか…と、今も思い出すとその典拠を探すことに苦心した記憶が呼び起こされます(汗)、ともかくも、考証を通して日本のオリンピック史や陸上競技史の貴重な一次史料に触れた経験を、これからの研究活動に最大限に活かしていきたいと思っています。

ちなみに、第24話で演出された関東大震災後の「復興運動会」は下記の論文を脚本化していただいたものです。もし本会の皆さまの中にドラマをご覧になって関心をお持ちの方がいらっしゃれば、ぜひ学会大会等でお話をさせていただきたいです。これからもご指導のほど、よろしく願いいたします。

<参考論文>

Obayashi Taro; Sanada Hisashi: Recovery from the Great Kanto Earthquake of 1923 through Sport Events in Tokyo, Japan
International Journal of the History of Sport/33(14)/pp.1640-1651, 2017.
<https://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/09523367.2017.1301432>

日本体育・スポーツ・健康学会 若手の会からのお知らせ

2018年8月に日本体育・スポーツ・健康学会若手の会が発足しました! → メーリングリスト登録フォーム:

<https://goo.gl/forms/zGMPdPq5fY3kcB5q2>

学会大会、研究会等の開催や報告者募集に関する案内、公募や助成金情報等に関する情報提供を配信予定です。皆様からも、メーリングリストで周知したい情報がありましたら、下記までご連絡ください。

taiikugakkaiwakate@gmail.com

